

Title	広島大学におけるドイツ語CALL教材とCALLの実践
Author(s)	吉田,光演;岩崎,克己
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2009, 10, p. 11-15
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/70280
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

広島大学におけるドイツ語 CALL 教材と CALL の実践

吉田 光演(広島大学大学院 総合科学研究科) 岩崎 克己(広島大学 外国語教育研究センター)

1. はじめに - 広島大学の CALL 環境

この小論では広島大学でこの間私達が進めてきた ドイツ語 CALL について、特に、CALL 教材開発と CALL 実践の面から報告したい。最初に広島大学の CALL 環境について述べ、次に広島大学での CALL 開発の理念の転換について触れて、具体的な CALL 教材について典型例を3つ紹介し、最後に今後の展 望を述べる。

東広島市キャンパスへの移転に伴い、広島大学総 合科学部に 3 つの CALL 教室 (J102: 64 人用, J209: 45 人用、J307: 63 人用) が 1993 年に新設され、そ の後1教室(K201: 42 人用)が設置、自習設備(J101、 西図書館マルチメディア外国語学習スペース) も設 置された。1 教室のコンピュータが Apple (PowerMac G5)だが、他は Windows マシンが設置 され、インターネット環境も整っている(図1)1。 LL 制御装置 (SONY、LLC-9000) によって出席管 理、映像音声制御を行い、eCALLシステム(島津理 化) によってコンピュータ上で問題資料ファイルの 配信回収、学生マシンの遠隔操作などを行う。LL 機能で面白いのはランダム・ペア会話機能である。 これは、ヘッドセットを使って離れた席の相手やグ ループ同士の間でランダムに会話練習を設定できる 機能で、実際に電話による会話を行っているような 臨場感がある。モニタリングもできるので、練習を さぼって雑談している学生には教師側から介入して、 「聞いているよ。ちゃんと練習しなさい」と指導も できる。



図1: J209CALL 教室での授業風景

CALL 教室での授業は、教養教育の外国語(英語、ドイツ語、フランス語、中国語など) や、学部専門の外国語授業が中心だが、他にも文系専門講義や大学院演習でも利用されており、高い利用状況にある。たとえば平成 21 年度前期 4 教室の稼働率の平均は約71%である。教授会などの会議のためそもそも授業がない時間帯や保守点検のための時間も考慮すると純然たる空きコマは少なく、ほぼ飽和状態にあるといえる。

広島大学の CALL 教育の特徴として、4 技能・マルチメディア環境の重視と、出発時からの多言語主義が挙げられる。他大学では英語教育で CALL が突出し、他の言語の取組が少ない傾向も見られたが、広島大学では CALL 導入初期から、英語、ドイツ語、中国語での CALL の実施と運営、共同研究がなされてきた。 CALL 教室の運営は、当初総合科学部で行っていたが、1997 年から外国語教育研究センターに移行し、同センターCALL 専門部会が中心となってCALL 教室・ソフトの管理、授業・FD の運営に当たっている ²。

¹ 広島大学 CALL システム導入の経緯・詳細については [7]を参照されたい。

² たとえば、以下の外国語教育研究センター内のサイトでは、広島大学ヴァーチャルユニバーシティ外国語学習講座

2. 広島大学でのドイツ語 CALL 教材開発の変遷

CALL 授業を始めて吉田は 15 年、岩崎は 13 年になるが、CALL といっても、私達は授業の全体をコンピュータを使用して展開している訳ではない。通常の授業と同様に紙媒体テキストを利用して文法説明や、作文練習・パートナーによる会話練習などを行いながら、パソコンを用いた CALL 授業を部分的に組み込んでいる。この間幾つかの CALL 教材を開発したが、90 年代に作成した CALL 教材 (HyperCard, OMO, Director などで作成した音声や絵を組み込んだ教材)について現段階で総括すると次のようにいえる。

- ・コミュニケーション中心の外国語学習の目的に そってマルチメディアを志向したこと、文法ドリ ル等の教材を手軽に自作できる教材作成ソフト を作った点は評価できる。
- 他方、OSの変化に対応できず汎用性に欠けていたのは問題であった。WindowsやMacOS、LinuxなどOSに依存した教材では他のOSで利用できず、同系のOSでさえバージョンアップにより動作しないといった問題が生じた。

特に2000年以降インターネットの普及により、Web 上で情報を取得してマルチメディアが実現できるようになってから、スタンドアローン・パッケージ型 ソフト、コースウェアの魅力は色褪せ、CALLの意味を再考せざるをえなくなった。インターネットの 登場によって、CALLの理念と実践は、以下のよう に新たな段階に入ったのである。

① インターネットにより、ドイツを始め世界中の文化・科学・時事ニュース等に接することができるようになり、言語コミュニケーションの動機づけが飛躍的に高まり、外国語リソースへのアクセスも飛躍的に容易になった。

「ひろしま外国語お好みひろば」として英語、ドイツ語を始め複数の外国語の学習教材が公開されている: http://vu.flare.hiroshima-u.ac.jp/

- ②外国語教授法の分野でも自立学習・協調型学習が強調され始めた。インターネットによるネットワーク化は外国語教育の方法論的転換にも影響を与えた([6]を参照)。
- ③ ネットワーク時代にあっては、CALL 教材の開発は、Web ブラウザ上で動作する汎用的なもの、さまざまに組み合わせて利用できるモジュール化された教材が望ましい。CALL 教材は Web 上に公開することでどこからでも教材にアクセスでき、利用できるようになり、それによって自立学習・協調学習が促される。

およそこのような考察に基づいて、2000年以降教 材開発の転換を行っていった3。

3. ネットワーク型 CALL 教材の例

以下では、2000年以降に作成した3つの典型的なドイツ語教材について紹介する。

3. 1 ドイツ語ビデオオンデマンド(VOD)教材

2000~2001 年に実施された「広島大学ヴァーチ ャルユニバーシティ」プロジェクトの一環(外国語 コンテンツ作成プロジェクト)として作成した教材 がオンラインビデオ講座『ドイツとの出会い (Freut mich)』(2002)である。これは、大学1年生向け初級 ドイツ語教材として作成した10課分のテキスト(1 分半程度の会話合計 20 編) を基に、ビデオスキッ トとして撮影編集したもので、このコンテンツを RealVideo を用いて Web 上に公開した (http://flare.media.hiroshima-u.ac.jp/german/) オンライン上で字幕付き(字幕なし)ビデオを見て 学習することができる(日本語訳の表示も可能)。個 別学習ができるように、ダイアローグ音声をパート ナー別に分けて音声出力できる対話練習(図2)、確 認練習なども提供している。この続編にあたるもの が同じく初級ドイツ語教材『ハンブルクの夏』(2005) であり、これも同じコンセプトに基づいている。こ の2つの教材は、教科書として編集して出版したも

³ 日本におけるドイツ語 CALL の歴史的な変遷について の詳細は[4]を参照されたい。

のであり(郁文堂から出版)、印刷テキストとオンライン講座の併用による学習効果の向上をねらっている([1]、[2]を参照)。



図2 「ドイツとの出会い」対話練習

3. 2 オンライン外国語講座 TERRA

エスエスエス (http://www.3si.co.jp/) が開発した LMS システム TERRA を 2003 年に導入し、これを 用いて練習教材を作成している (http://terra.flare.hiroshima-u.ac.jp ゲストログイ ン可能)。英語、ドイツ語、フランス語、中国語によ る外国語学習のためのドリル練習ができるサイトで、 これらの授業を担当する教員が教材をアップロード している。ドイツ語ウムラウトやフランス語特殊記 号にも対応しており、音声ファイル、画像ファイル の貼り付けが可能で、選択問題、書き込み問題、並 び替え問題などが簡単に作成できる。ブラウザ上で 問題作成・編集が可能で、学生の受講状況・成績も 確認できる。上述の『ハンブルクの夏』に準拠した 問題も提供しているので、教科書、CDによる学習、 オンラインビデオ教材によるビデオ学習、およびド リルによる文法練習のサイクルで学習することで効 果的学習が期待できる。1課につき30~40問の問題 を用意しておき、80%以上を合格ラインに設定する。 40 人程度の受講者で、ほぼ全員が 100%正解を出す まで問題を解く。結果はオンラインで記録され、達 成度は学生にも見える。試験直前の授業では学生は 真剣に練習に取り組む。インターネットでどこから でもアクセスできるので自宅などでも練習できる。 以前と比べれば、試験の成績が全体的に向上した。

むろんドリルはそれ自身受動的である。しかし外国 語学習の初歩では、単語を覚える、文章を書いて覚 えるといった反復練習は記憶強化のためには欠かせ ない。それが何度でも教室外でも可能で、フィード バックがすぐに得られるとすれば、学生の達成感は 大きい(詳しくは[8]を参照)。

3.3 ライティング支援 - ドイツ語パラレルコーパス

CALLは、ドリル練習だけでなく、学習者の創意 に基づく創造的な表現活動の支援にも役に立つ。初 級学習段階でも、自己紹介、日記、調べ学習、ヴァ ーチャル旅行などで外国語による作文を書かせるこ とは効果的だが、文を組み立てていく際にコロケー ションに準拠して表現すると、文例や句、語と語の 組み合わせを効果的に学習でき、目標言語の自然な 表現に近づけることができる。[5]にあるように、プ ロジェクト DJPD (Deutsch-Japanisches Parallelkorpus für Deutschlernende) の枠組みに おいて、すべての文をオリジナルで作成した23,000 件の簡単なドイツ語例文とその日本語訳のセットか らなる日独例文パラレルコーパスを構築し、WWW 上で検索可能なオンライン型例文データベースとし て公開した (http://www.vu.hiroshima-u.ac.jp/ deutsch/)。例文は、欧州評議会が作成した"Common European Framework of Reference Languages: Learning, Teaching, Assessment"で提 案された外国語能力の6段階規準 のうちの第1段 階から第4段階(A1からB2)に属する700個の動 詞、500 個の形容詞、2,700 個の名詞を基に各々4 セット程度ずつ作成し、これに疑問詞、副詞、日本 文化の紹介に必要な語を基にした例文約300を加え た。各文に関する情報は、1. ID 番号、2. 例文作成 の基礎となった見出し語、3. ドイツ語例文、4. 日 本語対訳、5. 受容レベル、6. 産出レベル、7. 品詞、 8.-9. 品詞ごとの文法情報などからなる計 11 個の情 報の束として登録されている。たとえば、動詞 kaufen (「買う」) を基に作った例文のデータは以下 のような形をしている。

38 / kaufen / Ich habe mir ein Buch gekauft. / 私は自分のために本を一冊買いました。 / Verb / A1 / A1 / kaufte / hat gekauft / Einkaufen / 1。

日本語・ドイツ語で検索可能で、ワイルドカードに よる部分検索もできる。ワイルドカードで kaufen の語幹 *kauf* を検索すると 272 件ヒットする。次 はその 1 例である。

- Er <u>kauft</u> zwei Karten für den Zirkus. ID 777
 彼はサーカスのチケットを2枚買います。
- ・ Gehen wir zusammen <u>einkaufen</u>? ID 893 一緒に買い物に行きませんか。

学習への応用としては、コーパス本来の用例から 語の用法を学ばせる発見型学習(「電話をする」意味 のドイツ語 anrufen と、telefonieren の用法の違い を発見的に見つけさせるなど)や、ドイツ語作文支 援(「好きな食べ物」といったテーマで、関連する語 で検索させ、用例をピックアップしつつ、それらを 参照しながら自分で文を組み立てていく)などの応 用が考えられる。作った作文は、Web 上に公開する ことによって、クラスメイトの学生同士が見て評価 しあう、それによって動機づけが高まるといった効 果が期待できる 4。

4. 今後の展望

遠隔地で対面授業が困難な学習条件や、話者数が 少ない言語の学習においては、コンピュータとイン ターネットは有力な学習手段である。しかし、ドイ ツ語のように(未だ)大学の第2外国語として広範 に学ばれている言語の場合、CALLのみに依存した 講義形態は必要ないと私達は考える。IT技術は目的 である外国語学習教育の手段であって、その逆では

4 この他、[3]にあるように、岩崎は、自動添削ソフト「サッと英作」を利用した和文独訳オンライン添削課題集「サッと独作」(340 題)を作成し、公開している。打ち込んだ答を自動的に添削してくれ、個々の文レベルでの独作文の基礎トレーニングができる。

http://vu.flare.hiroshima-u.ac.jp/german/dokusaku/

ない。教える側としては、教室での生きたコミュニケーションのトレーニングが第一義であり、CALLはそれを補完する形で機能すればよい。むしろ、幅広い CALLを構想することで、その利用形態はより広がりをもつようになる。単独またはグループによるプロジェクト学習の情報源としてWebを活用すれば大きな効果が得られ、外国語プレゼンテーションの手段としてパワーポイントを活用することも考えられる。また、教室外での課題・復習自習の手段として有効である。このような利用方法を考えた場合、今後は大がかりなシステムとしてのCALLよりは、モジュールとしての目的別教材の開発が有効である。あるいは、目的にそったWeb教材リンク集(Tips)の充実も望まれる。

吉田のホームページ

(http://home.hiroshima-u.ac.jp/mituyos/)

• 岩崎のホームページ

(http://home.hiroshima-u.ac.jp/katsuiwa/)

参考文献

- [1] 岩崎克己, 広島大学ヴァーチャルユニバーシティ: オンラインドイツ語講座の構築, 広島外国 語教育研究 5号, pp.77-85, 2002.
- [2] 岩崎克己, 広島大学ヴァーチャルユニバーシティ: オンラインドイツ語講座の構築その2, 広島外国語教育研究 6号, pp. 91-101, 2003.
- [3] 岩崎克己, オンラインによるドイツ語作文支援 環境の構築, 広島外国語教育研究 7 号, pp. 13-24. 2004.
- [4] 岩崎克己, 日本のドイツ語教育における CALL の創成期 -1990 年から 2000 年を中心に, 広島外国語教育研究 9 号, pp. 19-52, 2006.
- [5] 岩崎克己, 吉田光演, ライティング支援用ドイツ語オンライン辞書の開発, 広島外国語教育研究 7号, pp. 51-61, 2004.
- [6] Rüschoff, B., Wolff D., Fremdsprachenlernen in der Wissensgesellschaft, Ismaning, Hueber, 1999.

- [7] 吉田光演, 広島大学総合科学部の CALL システム, ドイツ語情報処理研究 9 号, pp. 45-55, 1997.
- [8] 吉田光演、田中雅敏、Terra を使ったオンラインドイツ語学習プログラムの構築、ドイツ語情報処理研究 15号, pp. 21-34, 2004.